

# 衣類の「取扱い表示」が変わりました

(2016年12月)

## 新しい「取扱い表示」のポイント

- 「基本記号」と「付加記号」や「数字」の組み合わせで構成される。
- 記号の種類が22種類から41種類に増え、より細かな表示が変わった。
- 参考情報が簡単な用語で付記される場合がある。
- 表示は、取扱い方の上限を表す。

基本記号 5つの					
	家庭洗濯	漂白	乾燥	アイロン	クリーニング

**付加記号と数字**

**【強さ】** 基本記号の下に付加

線なし 通常の強さ

— 弱い

== 非常に弱い

「線(—)」が増えるほど作用は弱くなる。

**【温度】** 基本記号の中に付加


<記号>

低 — 温度 — 高

● ● ●

タンブル乾燥やアイロン温度は「点(●)」で表す。数が増えるほど温度は高くなる。

<数字>

例 

数字は、家庭洗濯での洗濯液の上限温度。































**【禁止】**



基本記号と組み合わせ、禁止を表す。

## 取扱い表示 対比表<sup>※</sup> (新表示 / 旧表示)

※ 概ね対比するものを表しています。

新表示 (2016年12月～)	旧表示 (~2016年11月)	備考 (洗濯機での扱い等)
<b>洗濯の記号</b>	<b>洗い方</b>	
 液温は95℃を限度とし、洗濯機で洗濯処理ができる	 液温は95℃を限度とし、洗濯ができる。	● 当社洗濯機では、50℃以上のお湯をご使用頂かないよう、ご案内しております。
 液温は70℃を限度とし、洗濯機で洗濯処理ができる	—	
 液温は60℃を限度とし、洗濯機で洗濯処理ができる	 液温は60℃を限度とし、洗濯機による洗濯ができる。	
 液温は60℃を限度とし、洗濯機で弱い洗濯処理ができる	—	
 液温は50℃を限度とし、洗濯機で洗濯処理ができる	—	
 液温は50℃を限度とし、洗濯機で弱い洗濯処理ができる	—	
 液温は40℃を限度とし、洗濯機で洗濯処理ができる	 液温は40℃を限度とし、洗濯機による洗濯ができる。	
 液温は40℃を限度とし、洗濯機で弱い洗濯処理ができる	—	
 液温は30℃を限度とし、洗濯機で洗濯処理ができる	—	● 新表示「下線1本(—)」の強さは、洗濯機の「標準コース」に相当します。 例 
 液温は30℃を限度とし、洗濯機で弱い洗濯処理ができる	—	
 液温は40℃を限度とし、洗濯機で非常に弱い洗濯処理ができる	 液温は40℃を限度とし、洗濯機の弱水流又は弱い手洗い(振り洗い、押し洗い及びつかみ洗いがある)がよい。	● 新表示「下線2本(==)」の強さは、洗濯機の弱水流(例「おしゃれ着コース」など)に相当します。 例 
 液温は30℃を限度とし、洗濯機で非常に弱い洗濯処理ができる	 液温は30℃を限度とし、洗濯機の弱水流又は弱い手洗い(振り洗い、押し洗い及びつかみ洗いがある)がよい。	
 液温は40℃を限度とし、手洗いができる	 液温は30℃を限度とし、弱い手洗い(振り洗い、押し洗い及びつかみ洗いがある)がよい。(洗濯機は使用できない)	● 洗濯機で洗えません。手洗いしてください。
 家庭での洗濯禁止	 水洗いはできません。	● 家庭での洗濯はできません。
<b>漂白の記号</b>	<b>塩素漂白の可否</b>	
 塩素系及び酸素系の漂白剤を使用して漂白処理ができる	 塩素系漂白剤による漂白ができる。	● 塩素系漂白剤は、色落ち、変色の恐れがあります。
 酸素系漂白剤の使用はできるが、塩素系漂白剤は使用禁止	—	
 塩素系及び酸素系漂白剤の使用禁止	 塩素系漂白剤による漂白はできない。	
—	<b>絞り方</b>	
—	 手絞りの場合は弱く、遠心脱水の場合は、短時間で絞るのがよい。	● 新表示では「自然乾燥の記号(裏面)」に絞りがかたも併せて表示しています。
—	 絞ってはいけません。	

# 取扱い表示 対比表<sup>※</sup> (新表示 / 旧表示)

※ 概ね対比するものを表しています。

新表示 (2016年12月～)	旧表示 (~2016年11月)	備考 (洗濯機での扱い等)
<b>タンブル乾燥の記号</b>	—	
洗濯処理後のタンブル乾燥処理ができる。 高温乾燥：排気温度の上限は最高80℃	—	● 当社の洗濯乾燥機では「標準コース」が相当します。
洗濯処理後のタンブル乾燥処理ができる。 低温乾燥：排気温度の上限は最高60℃	—	● 当社の洗濯乾燥機では「毛布コース」「ホームクリーニング(おしゃれ着)コース」が相当します。
洗濯処理後のタンブル乾燥処理はできない。	—	● 旧表示に記号はありませんが「タンブラー乾燥はおさげてください」の注意文がある場合、相当します。
<b>自然乾燥の記号</b>	<b>干し方</b>	
つり干し乾燥がよい。	つり干しがよい。	● 「線1本(— または  )」は脱水後に、「線2本(= または   )」は濡れたままで(脱水や手絞りをせず)、干します。 ● 「斜め線(/)」は陰干しを表します。
めれつり干し乾燥がよい。	めれつり干しがよい。 ( 絞ってはいけません。)	
日陰でのつり干し乾燥がよい。	日陰のつり干しがよい。	
日陰でのめれつり干し乾燥がよい。	日陰のめれつり干しがよい。 ( 絞ってはいけません。)	
平干し乾燥がよい。	平干しがよい。	
めれ平干し乾燥がよい。	めれ平干しがよい。 ( 絞ってはいけません。)	
日陰での平干し乾燥がよい。	日陰の平干しがよい。	
日陰でのめれ平干し乾燥がよい。	日陰のめれ平干しがよい。 ( 絞ってはいけません。)	
<b>アイロン仕上げの記号</b>	<b>アイロンの掛け方</b>	
底面温度200℃を限度としてアイロン仕上げ処理ができる。	アイロンは210℃を限度とし、高い温度(180~210℃まで)で掛けるのがよい。	● 旧表示の「当て布(—  )」は、新表示に相当するものはありません。「当て布使用」などの付記用語で表します。 あて布使用
底面温度150℃を限度としてアイロン仕上げ処理ができる。	アイロンは160℃を限度とし、中程度の温度(140~160℃まで)で掛けるのがよい。	
底面温度110℃を限度としてアイロン仕上げ処理ができる。	アイロンは120℃を限度とし、低い温度(80~120℃まで)で掛けるのがよい。	
アイロン仕上げ処理はできない。	アイロン掛けはできない。	
<b>ドライクリーニング処理の記号</b>	<b>ドライクリーニング</b>	
パークロロエチレンおよび記号(F)の欄に規定の溶剤でドライクリーニング処理ができる。 通常の処理	ドライクリーニングできる。 溶剤はパークロロエチレン又は石油系のものを使用する。	● クリーニング店で、ドライクリーニングをおこなってください。
パークロロエチレンおよび記号(F)の欄に規定の溶剤でドライクリーニング処理ができる。 弱い処理	ドライクリーニングできる。 溶剤は石油系のものを使用する。	
石油系溶剤(蒸留温度150~210℃、引火点38℃~)でのドライクリーニング処理ができる。 通常の処理	ドライクリーニングできる。 溶剤は石油系のものを使用する。	
石油系溶剤(蒸留温度150~210℃、引火点38℃~)でのドライクリーニング処理ができる。 弱い処理	ドライクリーニングはできない。	
ドライクリーニング処理ができない。	ドライクリーニングはできない。	—
<b>ウェットクリーニング処理の記号</b>	—	
ウェットクリーニング処理ができる。 通常の処理	—	● クリーニング店で、ウェットクリーニングをおこなってください。
ウェットクリーニング処理ができる。 弱い処理	—	
ウェットクリーニング処理ができる。 非常に弱い処理	—	
ウェットクリーニング処理はできない。	—	